

学校組織における教育相談の定着化に関する研究 (2)

— 教育相談に及ぼすリーダーシップの影響に着目して —

西山 久子* ・ 淵上 克義**

The purpose of this study was to focus on the influence of school administrators' leadership on school counseling and guidance in Japan. The questionnaire was organized from the proceeding research to find out the school administrators' attitude of leading school personnel. The questionnaire was given to teachers belonging to elementary schools, junior high school and senior high school. The results were supported some of the hypothesis, including the positive influence from previous studies.

Keywords : School Counseling and Guidance, School System, Leadership

問題と目的

1. 学校が直面する現在の社会

今日の学校は、社会からの多くの期待を担い、あるべき姿を常に問われている。学校は評価に関する課題を抱えており、また、地域に開かれた学校を模索する一方、個人情報保護に関する課題を抱え、双方に壁を抱える状況にある。そして個々の教師は、特別支援教育・評価・家庭や地域の指導力の低下といった課題のなかで、教育の質の向上を迫られるという両面からの負担を抱えているのである。

そうした現状において、学校管理職は学校という組織における舵取り役としての大きな役割を果たしている。言い換えると、過重な課題を抱える教育現場において、スタッフをいかに良い状態で活動できるようにするかという点も、管理職や中間管理職のマネジメント力によるといえることができる。

2. 教育相談のあり方について

大野 (1998) は、教育相談の枠組みを考える際に、

教育相談に関する明確な指針の必要性に言及し、児童生徒個人のケアに絞った支援内容から、視点を交える必要性を述べている。教育相談は、児童生徒の学校環境への適応を支援するものと考えられる。とすれば、学校における課題を改善するという観点から、「教育相談」は、学校の生徒個人、生徒集団、教師、および組織全般に向けて、支援を行うものであるということになる。

教育相談体制のあり方について、教育関連団体が示す指針はあるものの (日本学校教育相談学会・認定委員会, 2002; 財団法人日本臨床心理士資格認定協会・学校臨床心理士ワーキンググループ (編), 2002) 教育相談係が、そのかかわるべき範囲に関する明確な方向づけを持たないことで、それぞれの個人技に頼らざるを得ず、曖昧で、そのことが要因となって現場が疲弊することが示されている (西山, 2003)。また、そのなかで教職員について校内での教育相談活動の遂行について、適切な対応 (指示や配慮など) が示されているかどうかをそれぞれの立

*兵庫教育大学連合大学院連合学校教育学研究科博士課程 (岡山大学配属) 673-1494 兵庫県加東郡社町下久米 942-1 (700-8530 岡山市津島中 3 丁目 1 番 1 号)

**岡山大学大学院教育学研究科 700-8530 岡山市津島中 3 丁目 1 番 1 号

Research in Establishment of School Counseling & Guidance Systems in School Structures : Focusing on the Influence of School Leadership in School Counseling & Guidance

*Hisako NISHIYAMA and **Katsuyoshi FUCHIGAMI

*The Joint Graduate School of School Education (Doctor's Course), Hyogo University of Teacher Education 942-1 Shimo Kume, Yashiro-cho, Kato, Hyogo 673-1494 (placed at Okayama Univ.)

**Graduate School of Education, Okayama University, 3-1-1 Tsushima-naka, Okayama 700-8530

場で明確にしていく必要があると考えられた。

3. 学校管理職のリーダーシップ

西山(2005)は、現場の教育相談係が教育相談活動の定着における阻害要因を、「学校業務の負担」「教科指導時間の多さ」にみている傾向を指摘した。教育相談係の課題として、学校での教務面から人事面に至るまで背景を原因とみる状況において、その対策の方向性を示すことが出来るのは、学校管理職しかない。学校管理職は、学校が抱えるこれらの現状をふまえて、最善の指針を示す立場にあるのである。学校でのリーダーシップに関して、淵上ら(2004)は、職場風土・コミュニケーション・管理職の影響について調査を行った。それによると、学校組織での意思決定構造と機能に関して、校長の影響力の受容と、教師の職務モチベーションや役割意識との間に関連性がみられたとしている。

つまり、管理職のリーダーシップのあり方によって、その組織の成員である教職員のパフォーマンスに影響を及ぼすことになるのである。

これらのことと先行的文献(Gutku & Reynolds, 1990)から、管理職のリーダーシップが学校組織へ及ぼす影響を、教育相談の定着という視点からみることで、この組織のもつ機能が明確化されるものと考えた。

方法

1. 質問紙の作成

1) フェイスシート

まず、フェイスシートにおいて性別、教職歴、教育相談担当年数および研修歴、校務分掌上の位置づけ、現任校での勤務歴、校種を尋ね、回答した教師のその時点での立場を把握した。

次に、回答者の学校での教育相談体制について、教育相談の届く範囲、同僚性、生徒支援の適切さ、人材活用、教員間の協働、教育相談体制への合意、教育相談体制の一貫性の7項目についてたずねた。それを教育相談の充実と定着についての評価として、この研究における従属変数とした。

2) 教育相談の定着を支える指標

これまでの先行研究(瀬戸・石隈, 2003; 瀬戸・石隈 2002)などから、教育相談に関するチーム援助や職場風土などの指標を検討した。その内容から、校長、教頭や副校長、および主任の学校管理職や中間管理職のリーダーシップについて、教育相談の支援との関係をはかり、それらを項目別に分類して整理した(Table1参照)。

3) 校長のリーダーシップ

①方針 ②指導 ③説得	「変革」
④教育相談の尊重 ⑤話し合い ⑥信頼 ⑦公平性	「配慮」

4) 教頭・副校長のリーダーシップ

①事務処理 ②補佐 ③校長職代行	「補佐」
④信頼 ⑤協力 ⑥問題解決 ⑦教育相談の尊重	「配慮」

5) 主任のリーダーシップ

①方針 ②指示	「指導」
③教育相談の尊重 ④公平性 ⑤受容 ⑥協力	「配慮」

※ 主任に関しては、学校内で中間的な立場にいる職員が学校種によって異なるため、小学校・中学校では学年主任、高校では教科主任に対して実施した。

2. 質問紙による調査

調査は、岡山県内の公立および私立小・中・高等学校に所属する教員を対象に実施された。2006年1月から4月までの間に行われ、配布した時点より、それぞれ約3週間後を締め切りとして提示された。質問の形態は5件法とし、回答者は質問紙を1部ずつ配布され、結果として133件の有効な回答が得られた。

結果

1. フェイスシートの検討

1) 回答者

小学校所属は3件、中学校所属が47件、そして高校所属が83件の合計133件のデータが収集された。

フェイスシートの数値を整理すると、以下のような回答者の内訳となった。

Table1

	男	女	計
小学校	0	3	3
中学	27	20	47
高校	33	50	83
合計	60	73	133

2) 記述統計

続いて、教育相談の定着と充実における7項目の従属変数について、因子分析を行い、記述統計による信頼性の確認を行った。その結果、Cronbachの α 係数において、0.854となり、一因子の因子行列となり信頼性が証明されたため、この項目を用いることに支障がないものと考えた。(Table2参照)

そのうえで、前述のそれぞれのリーダーの立場に関する2項目の他の項目とのあいだでの相関について、検討した。

Table2 従属変数の因子分析

	因子
	1
5. 本校では、生徒の支援には、みんなを抱え、取り組もうとする姿勢がある。	.804
6. 本校の教育相談活動の方向性は、教職員全体に共有されていると思う。	.796
3. 様々な生徒の問題に対応して適切な支援をすることができていると思う。	.751
1. 個別・グループや、学級単位など、教育相談の支援が全校の広い範囲の生徒に届いている。	.712
7. 担当者が変わっても、教育相談体制や活動の方向性は一貫しているだろうと思う。	.668
2. 生徒の支援について苦慮しているとき、気軽に仲間に相談ができる雰囲気がある。	.613
4. 生徒の支援に関して、外部の人材を積極的に活用することができていると思う。	.392

2. 独立変数の検討

小学校・中学校および高等学校に所属する教職員を対象に、所属校の管理職・中間管理職の関係を質問紙により調査した。

まず校長のリーダーシップ(①)に関して、方針、指導、説得、教育相談の尊重、話し合い、信頼、公平性の観点に分けて、「教育相談の充実」との相関

関係を検討した。

次に教頭または副校長のリーダーシップ(②)に関して、事務処理、補佐、校長職代行、信頼、協力、問題解決、教育相談の尊重の7項目において、「教育相談の充実」との相関関係を検討した。

また主任のリーダーシップ(③)に関して、方針、指示、教育相談の尊重、公平性、受容、協力の項目において、「教育相談の充実」との相関関係を検討した。

実際の検討には、リーダーシップの各項目を、それぞれ「変革」と「配慮」と「指導」に分け、校長、教頭・副校長、主任のそれぞれの立場で、教育相談の充実に関してどう影響を及ぼしているか、また、互いのリーダーシップがどう影響を及ぼし合っているかについて検証した。

その結果は以下の通りである。

Table3

	校長変革	校長配慮
定 着	.287	.226
校 長 変 革	/	.573
校 長 配 慮	.573	/
教 頭 補 佐	.359	.553
教 頭 配 慮	.365	.616
主 任 指 導	.281	.231
主 任 配 慮	.231	.243

① 校長のリーダーシップにおいては、「変革」に対する意識が高い場合、教育相談の定着や充実という観点において、Pearsonの相関係数では正の相関が認められた。一方、「配慮」においても、弱い相関が認められ、いずれも有意に影響を及ぼしていることが明らかとなった。つまり、校長が変革的リーダーシップを発揮すると、教職員が認知しているとき、教育相談の充実も高まると認められるといえる。

加えて、校長の変革型のリーダーシップは、主任の指導との間に弱い正の相関があることが示され、校長の熱心さなどが主任の指導に影響を及ぼすことがわかった。

Table4

	教頭補佐	教頭配慮
定 着	.155	.143
校 長 変 革	.359	.365
校 長 配 慮	.553	.616
教 頭 補 佐	/	.760
教 頭 配 慮	.760	/
主 任 指 導	.430	.517
主 任 配 慮	.426	.451

② 教頭・副校長のリーダーシップにおいては、相関が認められず、「補佐」「配慮」とともに、教育相談の充実との間には有意な相関は見られなかった。学校組織のなかで、教頭・副校長といった校長の代替的役割の強い役職においては、自らの方向性を示すこと以上に校長の方針を共有することが求められるため、職員に教頭・副校長独自のリーダーシップは認識されにくいのではないかと考えられる。また、教頭・副校長の職務自体が、補佐的であることから、職務を遂行することが、同時に教頭・副校長職にある個人の方針を明示することを抑制することになるのではないかと考えられる。

また、他の役職のリーダーシップとの間においても、顕著な相関はみられなかった。

Table5

	主任指導	主任配慮
定 着	.201	.182
校長変革	.281	.231
校長配慮	.231	.243
教頭補佐	.430	.426
教頭配慮	.517	.451
主任指導	/	.728
主任配慮	.728	/

③ 学年や教科における主任のリーダーシップについては、「指導」の面において弱い相関が見られた。主任の指導性が高まると、教育相談も充実する傾向にあるといえることができる。主任の「配慮」は、「指導」と比較してより弱い相関が認められた。主任は、生徒の抱える課題に対して直接的な指示をする立場にあるため、指導性も配慮も教育相談の充実にある程度関係があるのではないだろうか。

また、主任のリーダーシップは、校長の「配慮」とのあいだに正の相関がみとめられた。その一方で、本来細かくかかわっているべき教頭との間に相関関係が見出せないことは、今後の課題として検討すべき項目と考えられる。

Table6

	固 有 値	共 通 性
1. 個別・グループや、学級単位など、教育相談的支援が全校の広い範囲の生徒に届いている。 2. 生徒の支援について苦慮しているとき、気軽に仲間に相談が		

できる雰囲気がある。		
3. 様々な生徒の問題に対応して適切な支援をすることができていると思う。		
4. 生徒の支援に関して、外部の人材を積極的に活用することができていると思う。		
5. 本校では、生徒の支援には、みんなで抱え、取り組もうとする姿勢がある。		
6. 本校の教育相談活動の方向性は、教職員全体に共有されていると思う。		
7. 担当者が変わっても、教育相談体制や活動の方向性は一貫しているだろうと思う。		

考察

これらの調査において、それぞれの学校管理職および主任との連携の必要性を叫ばれながら（関，1993；瀬戸，2003），なかなか校内での各役職による支援が得られない場合も少なくないという現実がうかがえる。言いかえれば、管理職のサポートがないということは、組織としての教育相談が安定した状態にあることは難しいということであると考えられる。学校管理職のリーダーシップが変革型であり、かつ現場の直接的な担当者である相談係が適切な活動を行っているとき、学校は教育相談における課題を克服するものであると言えるのではないだろうか。

総合的考察と今後の課題

これらのことから、教育相談の定着に向けた支援という観点では、「変革」型リーダーシップの態度を備えている管理職は、児童・生徒のための教育相談活動の充実においても、影響を及ぼしている。学校組織における方向づけについて最も強い影響を与えられるのが、校長であることは、教育相談に限られたことではない。学校組織に対する方針決定が校長によって明確に示されることを、現場の成員がポジティブに評価する可能性が高まり易いのではないだろうか。

しかし、各学校組織内のコミュニケーション、同僚性や風土によっても組織の機能は大きく変化する（淵上，2005）。また、個人的な力量や特徴などの要因がどう影響しているかについても今後に向けて解明する必要がある。

加えて、学校をとりまく環境(田村・石隈, 2003)や教育行政面のあり方は、学校組織や管理職のあり方にも影響を与えてくることが考えられる。学校組織のリーダーシップを検証するにあたっては、そうした要素も検討する必要があると考える(八並, 2006; 西山, 2003)。

今後の研究では、そうした個人的・環境的要素を整理したうえで、学校組織への教育相談の側面からの支援を促進するリーダーシップのあり方を明確にする。それと同時に、学校組織を構成する要素を把握することを目指すものとする。

引用文献

- 淵上克義 (2005) 学校組織の心理学 日本文化科学社
- 淵上克義, 小早川祐子, 下津雅美, 棚上奈緒, 西山久子 2004 学校組織における意思決定の構造と機能に関する実証的研究 (1) 岡山大学教育学部研究集録 第126号 Pp.43~51
- 淵上克義 2003 学校組織研究における最新の研究動向 (I) - 組織認知と相互作用の視点から - 岡山大学教育学部研究集録, 第123号, 179-194
- Gutkin, T.B. & Reynolds, C.R., 1990 The Handbook of School Psychology Second edition John Wiley & Sons Illback, 1992
- 家近早苗 石隈利紀 2003 中学校における援助サービスのコーディネーション委員会に関する研究 - A中学校の実践をととして - 教育心理学研究 Vol.51, 230 - 238.
- 石隈利紀 1999 学校心理学, 誠信書房.
- 伊藤美奈子・中村健 1998 学校現場へのスクールカウンセラー導入についての意識調査-中学校教師とカウンセラーを対象に- 教育心理学研究 Vol.46, 121-130
- 日本学校教育相談学会・認定委員会 (編) 2002 日本学校教育相談学会認定学校カウンセラーの目指すもの 日本学校教育相談学会
- 西山久子・淵上克義 2005 教育相談システムを機能化するための学校組織特性に関する研究動向, 岡山大学教育学部研究集録 Vol.129 1 - 9

- 西山久子 2005 学校での教育相談活動に関する定義と阻害要因の研究 - 教育相談に関する組織特性の側面から - 2005年日本学校心理学会総会発表資料
- 西山久子 2003 わが国の最近1年間における教育心理学の研究動向と展望 特別部門(学校心理学)教育心理学年報42集 日本教育心理学会 139~147頁
- 大野精一 1998 学校教育相談の定義について 教育心理学年報 37, 153-159
- 関文恭 1993 荒れた中学校における学校改善の実証的研究 実験心理学研究, Vol.33, No.2
- 瀬戸健一 2003 A高校における教員文化の事例研究 - 教員の「協働性」を中心として - コミュニティ心理学研究 Vol.6-2 55-71.
- 瀬戸美奈子・石隈利紀 2003 中学校におけるチーム援助に関するコーディネーション行動とその基盤となる権限の研究 教育心理学研究 第51号 378-389.
- 瀬戸美奈子 石隈利紀 2002 高校におけるチーム援助に関するコーディネーション行動とその基盤となる能力および権限の研究 - スクールカウンセラー配置校を対象として - 教育心理学研究, Vol.50, 204 - 214.
- 田村節子・石隈利紀 2003 教師・保護者・スクールカウンセラーによるコア援助チームの形成と展開 - 援助者としての保護者に焦点を当てて - 教育心理学研究, Vol.51, 328-338
- 八並光俊 2006 わが国の最近1年間における教育心理学の研究動向と展望 特別部門(学校心理学)教育心理学年報46集 日本教育心理学会 139~147頁
- 財団法人日本臨床心理士資格認定協会・学校臨床心理士ワーキンググループ (編) 2002 学校臨床心理士(スクールカウンセラー)の活動と専門性 財団法人日本臨床心理士資格認定協会

(Hisako Nishiyama, Katsuyoshi Fuchigami)